

2022年3月期

第2四半期 決算説明資料

決算説明および成長戦略

三浦工業株式会社

代表取締役社長執行役員CEO 宮内 大介

2021年11月18日

熱・水・環境のベストパートナー

MiURA

1	2022年3月期 第2四半期業績	3
2	2022年3月期 通期見通し	13
3	株主還元	18
4	中国事業の進捗と今後の見通し	20
5	カーボンニュートラルに向けて	28
6	Appendix	40

注意事項

本資料のうち、今後の計画・見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値とは異なる場合があります。掲載内容には、細心の注意を払っておりますが、掲載された内容に基づいて被った損害については、弊社は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

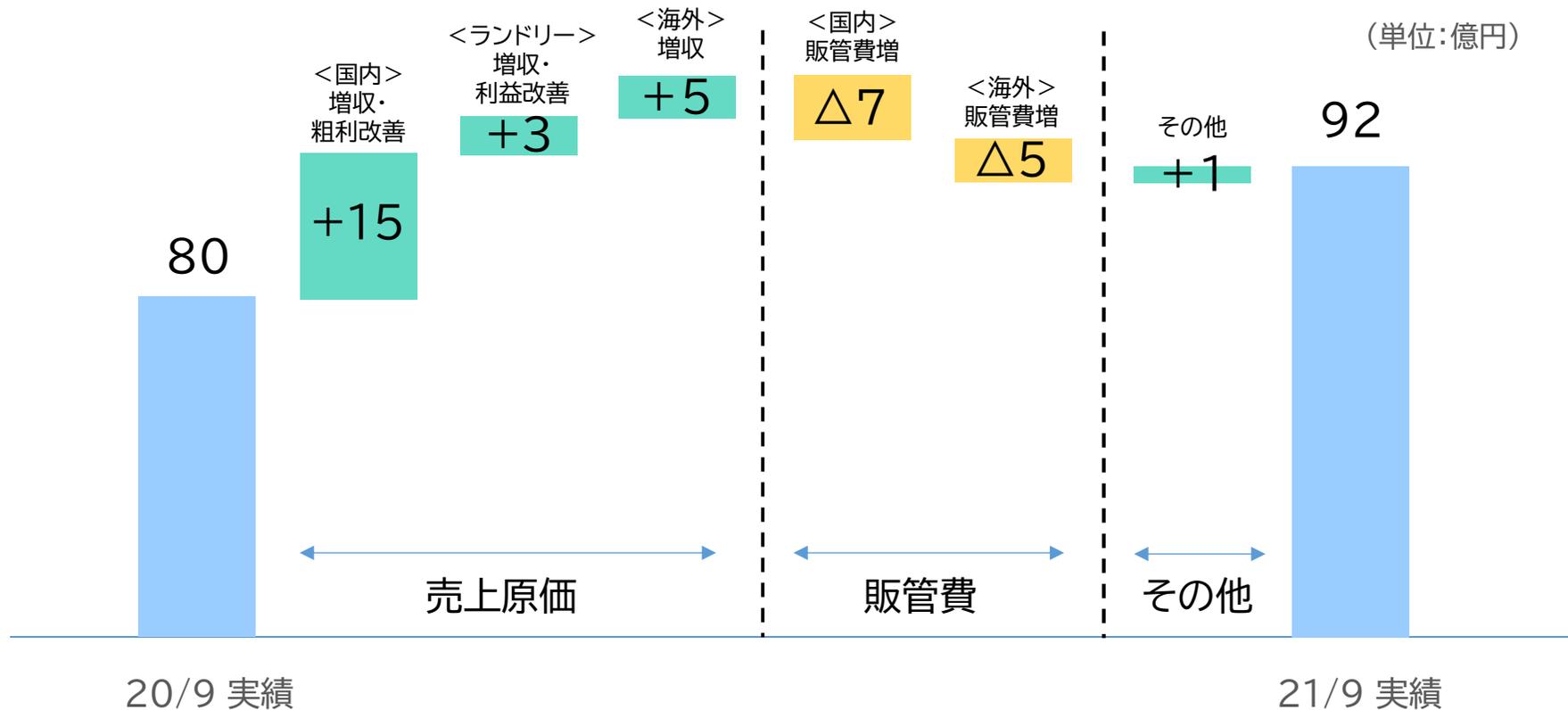
1. 2022年3月期 第2四半期業績

<IFRS>	単位	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q	前年 同期比	2022年3月期 2Q 計画	2022年3月期 通期計画
売上収益	億円	615	662	+46	665	1,415
営業利益	億円	80	92	+12	86	184
営業利益率	%	13.0	14.0	+1.0	12.9	13.0
税引前利益	億円	81	94	+13	87	187
親会社の所有者に 帰属する当期利益	億円	57	67	+10	63	135
1株当たり当期利益	円	51	60	+9	55	119
配当	円	14	17	+3	16	37

概要

- ・前年同期比に対しては増収増益、計画に対しての進捗は想定の範囲内
- ・第2Q利益が計画より大きく上回ったため、中間配当を計画より1円増配
- ・通期は当初計画から変更なし

営業利益増減要因(前年同期差)



- ・国内は売上の製品構成の変化により粗利が改善
- ・増収効果により利益が増加
- ・販管費が想定より抑制

セグメント別

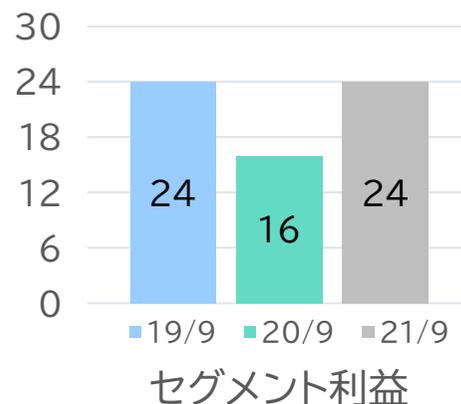
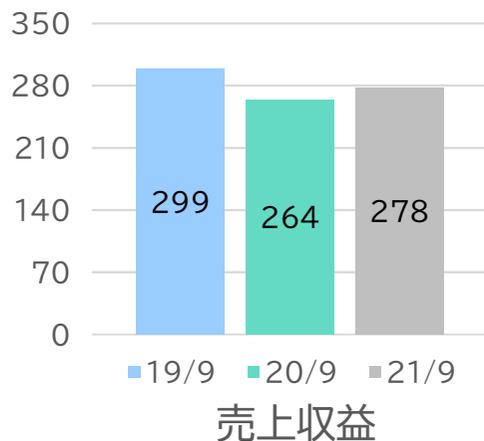
(単位:億円)

	売上収益				営業利益			
	2021年 3月期2Q	2022年 3月期2Q	前年 同期比	2Q 計画	2021年 3月期2Q	2022年 3月期2Q	前年 同期比	2Q 計画
国内機器販売	264	278	+13	286	16	24	+8	23
国内メンテナンス	168	180	+12	171	50	50	0	47
ランドリー	58	65	+6	60	0.1	2	+2	0
海外機器販売	89	100	+10	112	7	8	+1	10
海外メンテナンス	33	36	+2	36	6	6	+1	6
合計	615	662	+46	665	80	92	+12	86

セグメント別(前年同期比)第2四半期

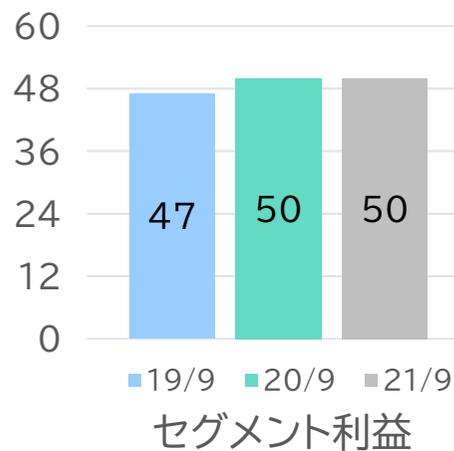
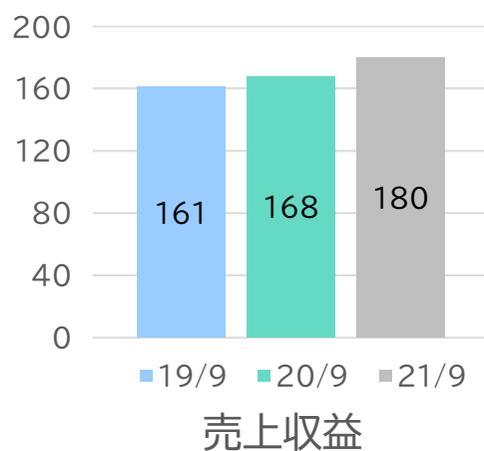
(単位：億円)

【国内機器販売事業】売上収益：前年比 +5.2%、セグメント利益：前年比 +53.4%



- ・ボイラ事業、食機事業、メディカル事業の設備投資需要が回復傾向のため、売上が増加
- ・船用事業は国内船建造台数の影響もあり、低調に推移
- ・増収及び製品構成の変化による粗利改善で、利益が大きく増加

【国内メンテナンス事業】売上収益：前年比 +7.2%、セグメント利益：前年比 +0.1%

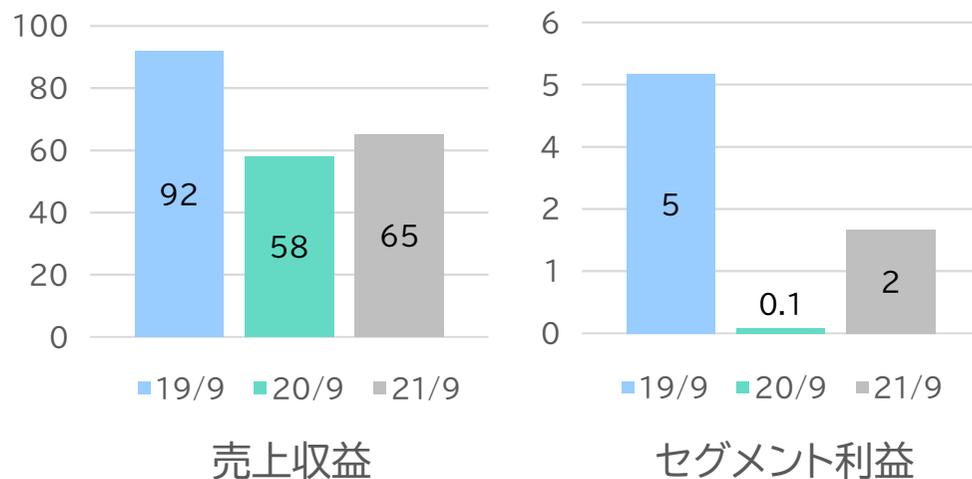


- ・熱・水・環境関連の提案推進により売上が増加
- ・保守契約は昨年度の販売台数減少の影響で、伸びが鈍化
- ・人件費の増加の影響もあり、利益は横ばい

セグメント別(前年同期比)第2四半期

(単位：億円)

【国内ランドリー事業】売上収益:前年比 +11.8%、セグメント利益:前年比 - %

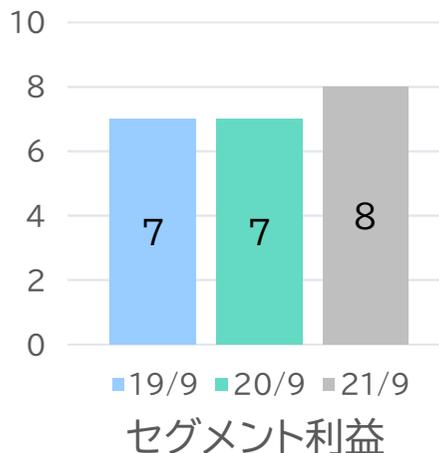
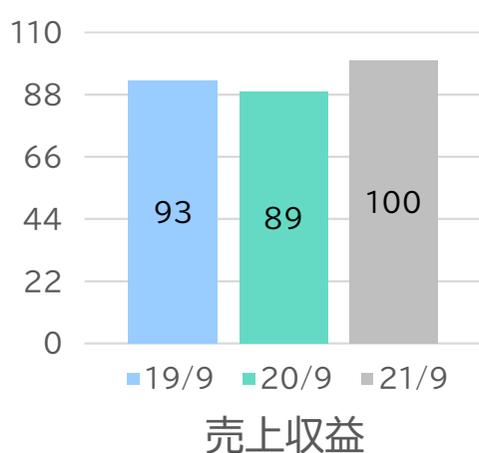


- ・第2Qに大型物件の販売があり、売上が増加
- ・増収効果や自社製品の販売割合の増加で、利益が増加

セグメント別(前年同期比)第2四半期

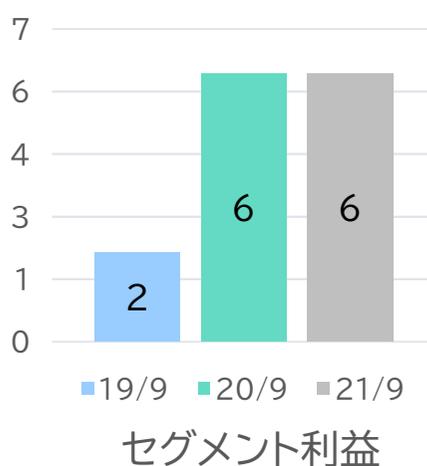
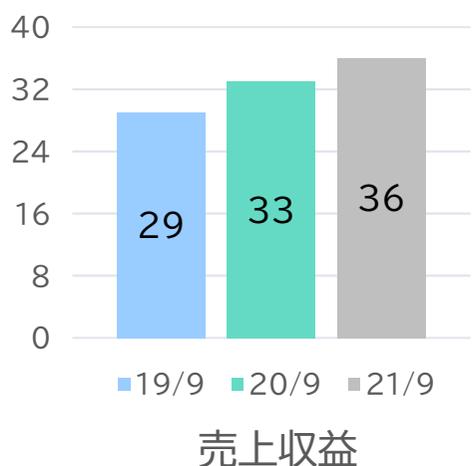
(単位：億円)

【海外機器販売事業】売上収益：前年比+11.9%、セグメント利益：前年比 +17.1%



・中国・韓国で米中関係の不透明さや景気悪化により低調に推移したが、昨年度コロナにより大きく影響を受けた地域の設備投資需要に改善がみられ、売上が増加

【海外メンテナンス事業】売上収益：前年比 +8.7%、セグメント利益：前年比 +9.5%



・中国のバーナ改造工事は減少したが、保守契約件数は堅調に増加し、売上が増加

事業別 売上高

単位:億円

		2020年3月期 2Q(実績)	2021年3月期 2Q(実績)	2022年3月期 2Q(実績)	前年 同期比
国内	ボイラ	299	264	300	+36
	アクア(水処理機器)	19	22	27	+5
	船用	57	62	44	△18
	食機・メディカル	56	50	58	+8
	ランドリー	92	58	66	+8
	その他(特機・新事業開発・環境等)	31	35	30	△5
	国内計	554	492	525	+33

- ・ボイラ事業、食機・メディカル事業はコロナ禍で落ち込んでいた設備投資需要が回復
- ・船用事業は新造船建造量の減少により低調に推移
- ・ランドリー事業は第2Qは大型物件があり売上は増加したが、景況感は引き続き厳しい

事業別 売上高

単位:億円

		2020年3月期 2Q(実績)	2021年3月期 2Q(実績)	2022年3月期 2Q(実績)	前年 同期比
海外	米州(アメリカ・カナダ・ブラジル・メキシコ)	25	21	30	+9
	韓国	38	40	39	△1
	中国	39	46	44	△2
	その他(ASEANほか)	22	17	24	+7
	海外 計	123	124	137	+13

- ・米州、アセアン地区は昨年度はコロナの影響もあり低調、今年度はコロナの影響が低下し売上が増加したが、コロナが完全に収束はしていないため、先行きは不透明
- ・中国は米中関係の不透明さや環境対策推進の鈍化により低調
- ・韓国は景気悪化により低調
- ・メンテナンス事業は堅調に推移

連結財政状態計算書(バランスシート)

単位:億円

		2021年 3月期2Q	2022年 3月期2Q	前年 同期比
資産	流動資産	1,059	1,209	+150
	現金および現金同等物	321	371	+51
	営業債権	341	388	+48
	その他の金融資産	173	218	+46
	棚卸資産	217	222	+5
	その他流動資産	6	7	+1
	非流動資産	786	785	△1
	資産合計	1,845	1,995	+150
負債・資本	流動負債	393	432	+39
	営業債務	113	134	+21
	その他	280	298	+18
	非流動負債	71	64	△7
	負債合計	464	497	+33
	資本合計	1,380	1,497	+117

・現金及び現金同等物の増加は、売上が増加したことによる影響

・営業債権の増加は昨年度第2Q(7月~9月)に比べ、売上が増加したことによる影響

2. 2022年3月期 通期見通し

通期見通し

	単位	2021年3月期	2022年3月期 計画	前年同期比
売上収益	億円	1,347	1,415	+68
営業利益	億円	178	184	+6
営業利益率	%	13.3	13.0	△0.3
税引前利益	億円	181	187	+6
親会社の所有者に帰属する当期利益	億円	126	135	+9
1株当たり当期利益	円	112	119	+7
為替レート				
USD	円	106.10	108.00	+1.9
元	円	15.68	16.20	+0.52
WON(100W)	円	9.17	9.40	+0.23

セグメント別

単位:億円

	売上収益				営業利益			
	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 当初計画	2022年 3月期 修正計画	修正計画 増減	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 当初計画	2022年 3月期 修正計画	修正計画 増減
国内機器販売	604	608	608	—	48	51	51	—
国内メンテナンス	347	365	369	+4	95	99	99	—
ランドリー	125	127	127	—	1	0	0	—
海外機器販売	197	239	235	△4	20	21	21	—
海外メンテナンス	71	76	76	—	12	13	13	—
合計	1,347	1,415	1,415	—	178	184	184	—

事業別

単位:億円

	事業・地域	2021年3月期 実績	2022年3月期 当初計画	2022年3月期 修正計画	修正計画増減
国内	ボイラ	600	630	639	+9
	アクア(水処理機器)	46	48	48	—
	舶用	117	99	94	△5
	食機・メディカル	113	118	118	—
	ランドリー	126	127	127	—
	その他(特機・新事業開発・環境等)	75	78	78	—
	国内計	1,077	1,100	1,104	+4
海外	米州	51	61	66	+5
	韓国	78	86	86	—
	中国	99	119	110	△9
	その他(ASEANほか)	41	49	49	—
	海外計	269	315	311	△4
合計		1,346	1,415	1,415	—

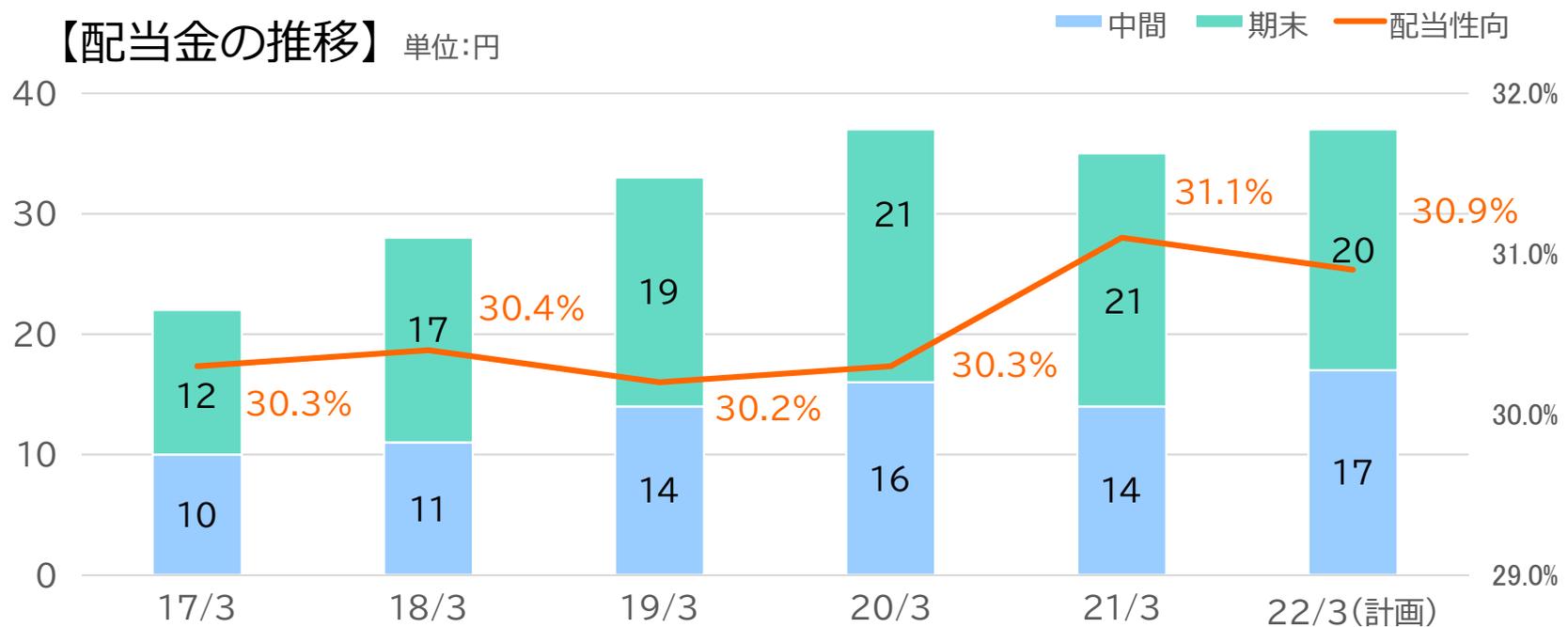
事業別

	事業・地域	見通し
国内	ボイラ	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資需要の回復の兆しがあり、昨年度よりは売上増加 ・メンテナンスは提案活動の増加により、堅調に推移 ・年間計画は上方修正
	アクア(水処理機器)	<ul style="list-style-type: none"> ・提案営業を推進し、堅調に推移
	船用	<ul style="list-style-type: none"> ・新造船建造量減少の影響もあり、厳しい状況 ・年間計画は下方修正
	食機・メディカル	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資需要の回復の兆しがあり、昨年度よりは売上増加
	ランドリー	<ul style="list-style-type: none"> ・景況感は回復しておらず、引続き厳しい状況
	その他(特機・新事業・環境等)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境事業は安定して推移
海外	米州	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダ・メキシコ・ブラジルでコロナ禍からの回復がみられており、堅調に推移 ・アメリカは引続き堅調に推移。年間計画は上方修正
	韓国	<ul style="list-style-type: none"> ・景気の回復はすぐには見込めないため、厳しい状況 ・主に中小企業での設備投資需要が減少
	中国	<ul style="list-style-type: none"> ・先行きの不透明感はすぐに改善の見込みはみられないため厳しい状況 ・年間計画は下方修正
	その他(ASEANほか)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響が引続き残る地域もあるため、先行きは不透明だが、昨年度よりは回復

3. 株主還元

	20年3月期	21年3月期	22年3月期(計画)
① 安定的な配当の継続	中間 16円 期末 21円	中間 14円 期末 21円	中間 17円 期末 20円
② 連結配当性向30%を目処	合計 37円	合計 35円	合計 37円

【配当金の推移】 単位:円



ROE	8.5	9.2	10.1	10.6	9.1	—
-----	-----	-----	------	------	-----	---

【ご参考】※2021年3月31日時点

発行済株式総数(自己株式除く) 112,736,979 株、自己株式数 12,554,133 株

4. 中国事業の進捗と今後の見通し

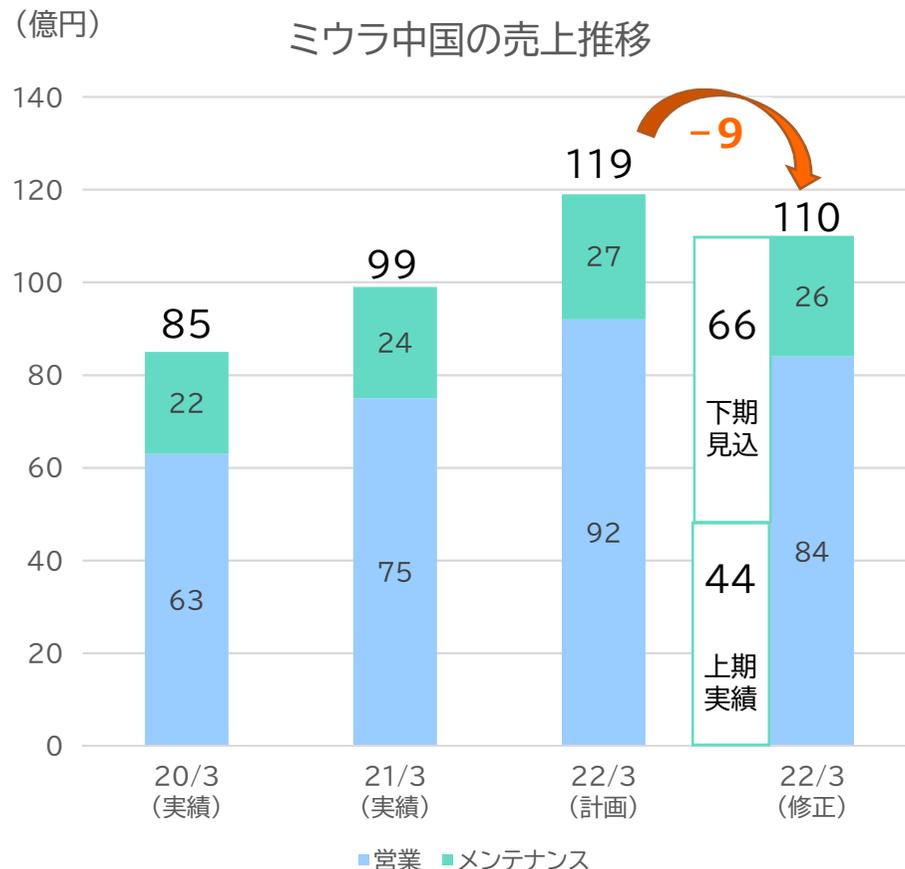
三浦工業株式会社

取締役常務執行役員

海外事業統括本部長 児島 好宏

2021年11月10日時点

2022年3月期 計画と売上見込み



蘇州の新工場【生産能力 5,000台/年】

ミウラ中国 戦略

- ①規制緩和によりガス焼きボイラ入替戦略
ガスーガス戦略
- ②業種戦略「メインターゲット4業種」
食品・製薬・段ボール・飼料
- ③低NOx規制対応戦略

売上修正 主要因

- 【営業】ガスーガス 入替提案が低調
- 【メンテナンス】低NOx対応による
バーナ 入替工事が低調

中国の概況



2060年カーボンニュートラル

(温室効果ガス排出量を実質ゼロに！)

- ・2020年9月 国連総会で習主席が表明
- ・2021年3月「第14次5か年計画」において、カーボンニュートラルの実現に全面的に取り組む方針を発表
- ・2021年5月末 ⇒ 6月～7月末 ⇒ 7月～8月末 ⇒ 8月～9月末
各部門政策決定 ⇒ 各省・特別行政区 政策決定 ⇒ 市政策決定 ⇒ 県

中国経済(景気の減速感が強まる)

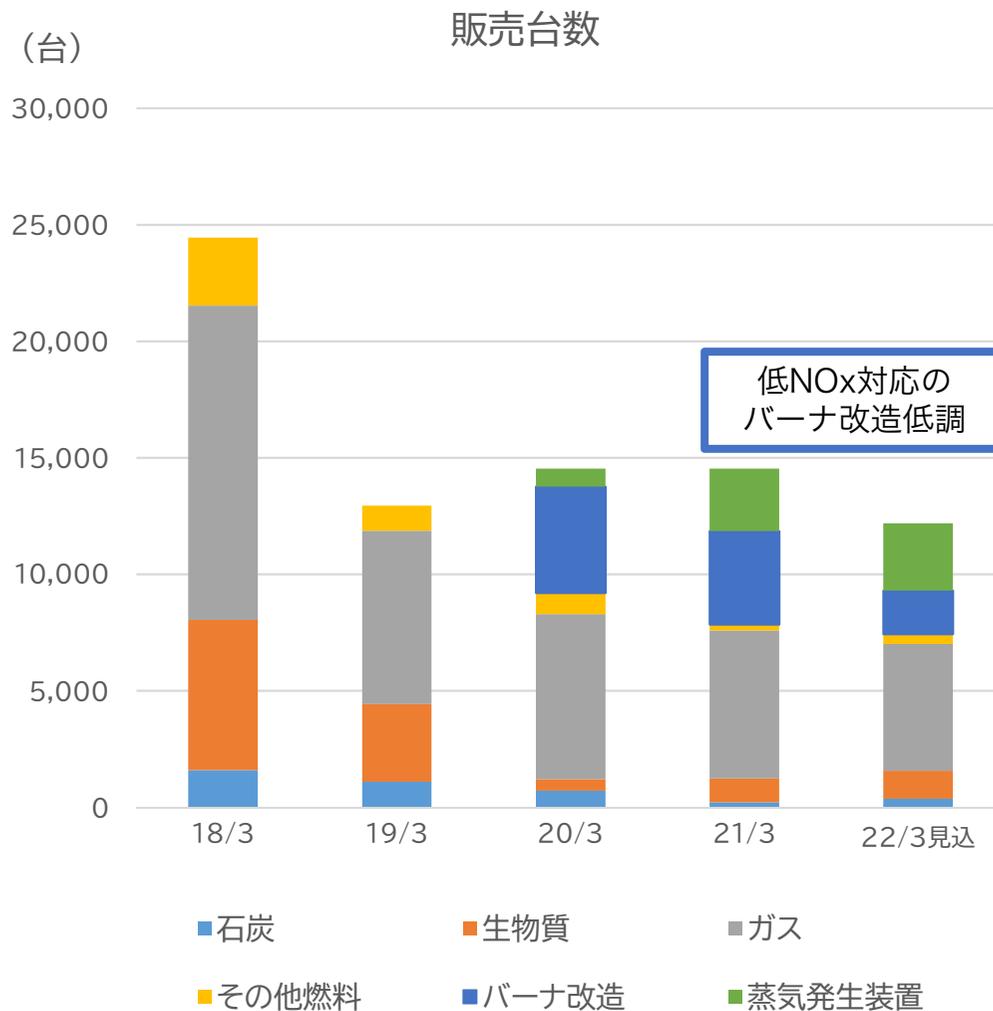
- ・中国財新製造業「景況感」PMI指数
8月に目安の「50.0」を割り込む
9月は「50.0」に改善
⇒環境規制の緩和と改善時期の延期
- ・電力不足問題が、9月末に各地域で発生

中国の市場

政治的要素	ボイラ市場は落ち込んでいるがミウラへの影響は少ない	→
環境政策1	環境規制の緩和(石炭・生物燃料のガス化)	→
環境政策2	低NOx規制は継続(バーナ改造)	規制が進んでいない →
環境政策3	排水・排気規制で工場移転(地方へ)	→
環境政策4	省エネ建築(新建材)	不動産業界のデフォルト →
貧困対策	農業・漁業の工場化(飼料・食品加工・キノコ栽培)	→
COVID19 の影響	業種、企業で明暗が分かれる	→
食品業界	加工品・エキス・健康食品・家庭向け加工品	輸出企業は景況感悪化 →
機械業界	車・食品機械・製薬機械	→
繊維染色	アジアからの生産移転(一時的)	→
段ボール	自宅配送の増加	原料アップで収益悪化 →
製薬	飲み薬・健康関連(漢方・ビタミン剤・エキス)	→

中国ボイラ市場の変化(1月～12月)

2019年度と2020年度との比較



ボイラ市場全体の特徴

- 石炭焼きボイラ販売台数が1/3に減少
販売許可は35トン以上の大型のみ
- 蒸気発生装置販売台数が3.5倍に増加
蒸気の乾き度、圧力負荷変動に関する問題が確認されており、今後蒸気発生装置を使用する業種が明確になってくる
- ガス焼きボイラ販売台数が10%減少



バーナ改造の他社ガスボイラ
入替戦略の継続

2021年度の傾向

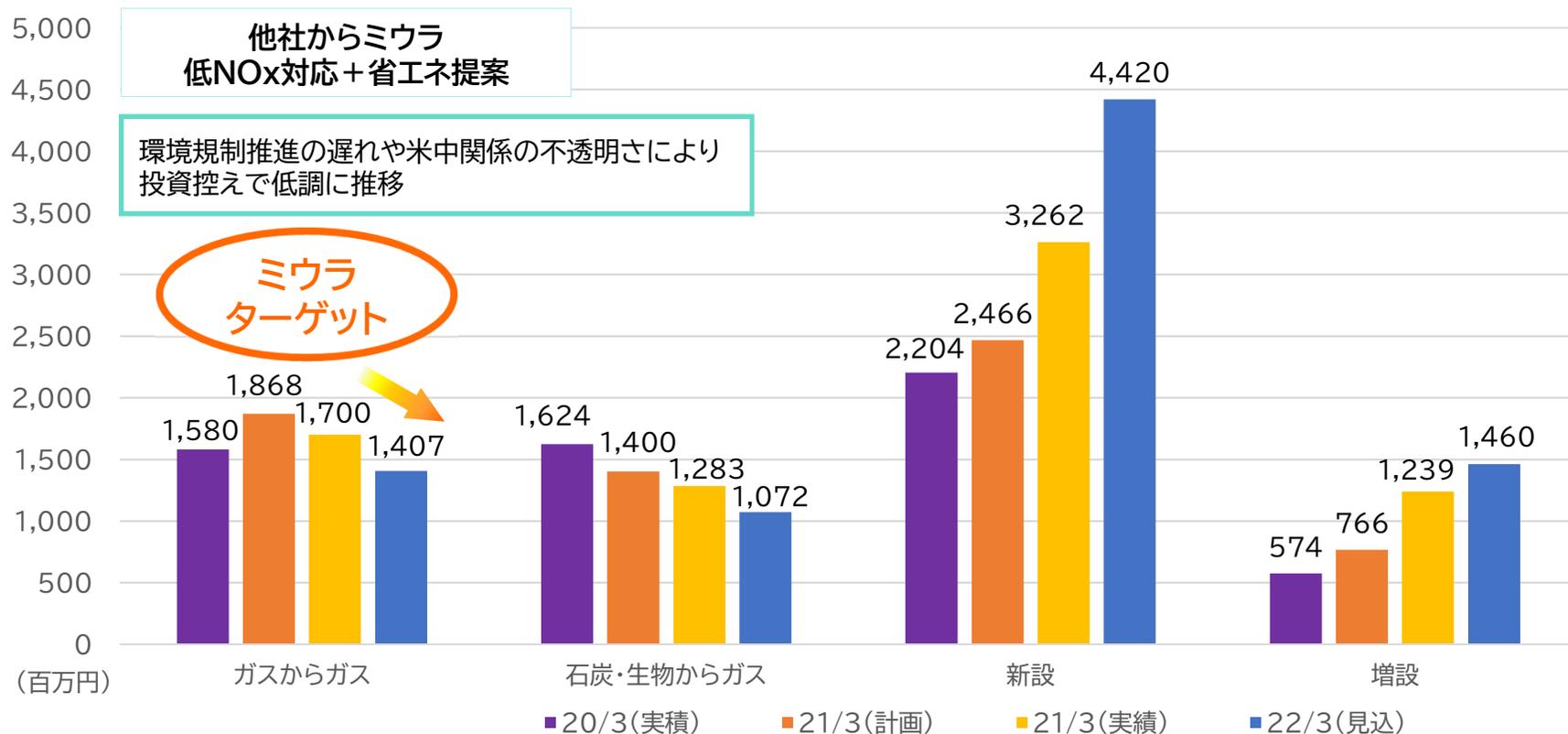
- ◆ 低NOx対応工事の進捗が低調
【課題】行政が規制を進めていない
(期限があるが罰則無し)
【具体策】営業部門の行動量を増やす

ボイラ納入区分推移(ミウラの納入先分析)

◆ガス→ガス入替提案が低調

【課題】入替意志のないお客様への提案

【具体策】省エネ金額が2~3年回収顧客(比率:39%)の取り込み
鋼材価格上昇により増加している工事代の削減対応



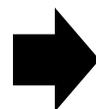
新設物件)

- ・大手企業が新築工場を建設(COVID19の影響による中小企業の廃業や倒産により大手企業が市場をカバー)
- ・環境規制(排水規制、化学工場規制)により工場移転が増加

中国ボイラ市場業種分析(ミウラの業種分析)

ターゲット業種の2020年度実績(対昨年度比)

食品↘ 製薬↗ 段ボール↗ 飼料↗



2021年度 当初目標

4業種でおよそ2倍の売上UPを目指す!

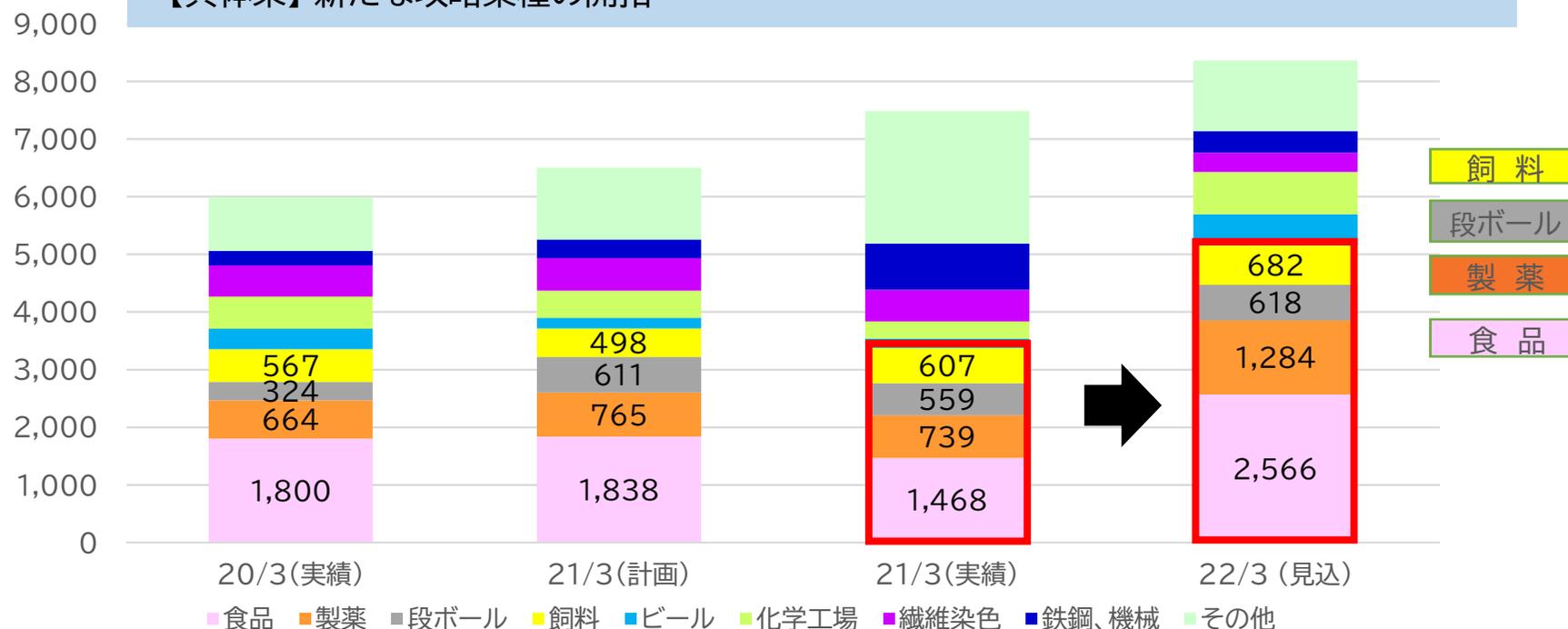
◆食品関係に悪影響が出ている

【課題】米中対立の長期化およびCOVID19の影響

- ・輸出加工業者は輸送コストアップで利益率の定価対策に苦慮している
- ・飼料業界は輸入原料の高騰と豚肉の価格ダウンで淘汰されていく可能性大
- ・段ボール原紙の価格アップがあり価格転嫁できない状況

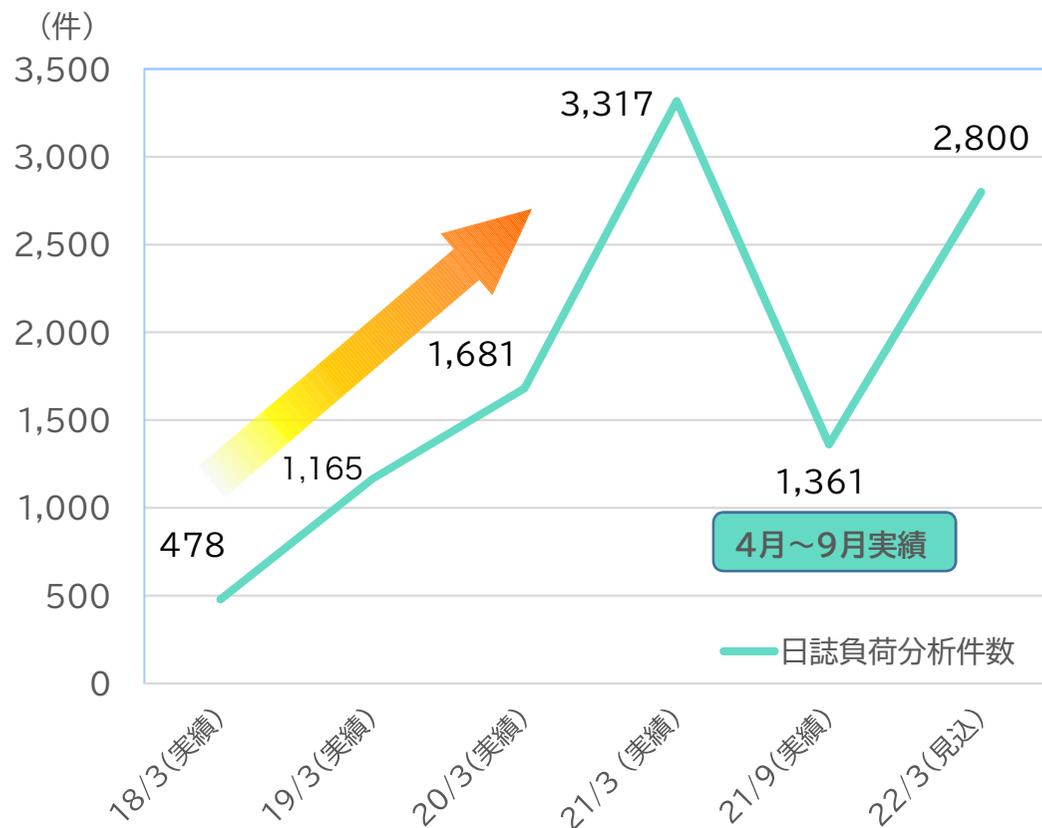
【具体策】新たな攻略業種の開拓

(百万円)



ガスーガス戦略の具体的な施策(営業の強化→省エネ提案)

他社ボイラの日誌負荷分析を行い、より効率の良いシステムを提案する



【課題】

入替意志のないお客様への提案を強化しガスーガス入替提案を進めているが、投資意欲が低くなってきており、回収メリットが1年半以上となると入れ替えが進まない状況がある

【具体策】

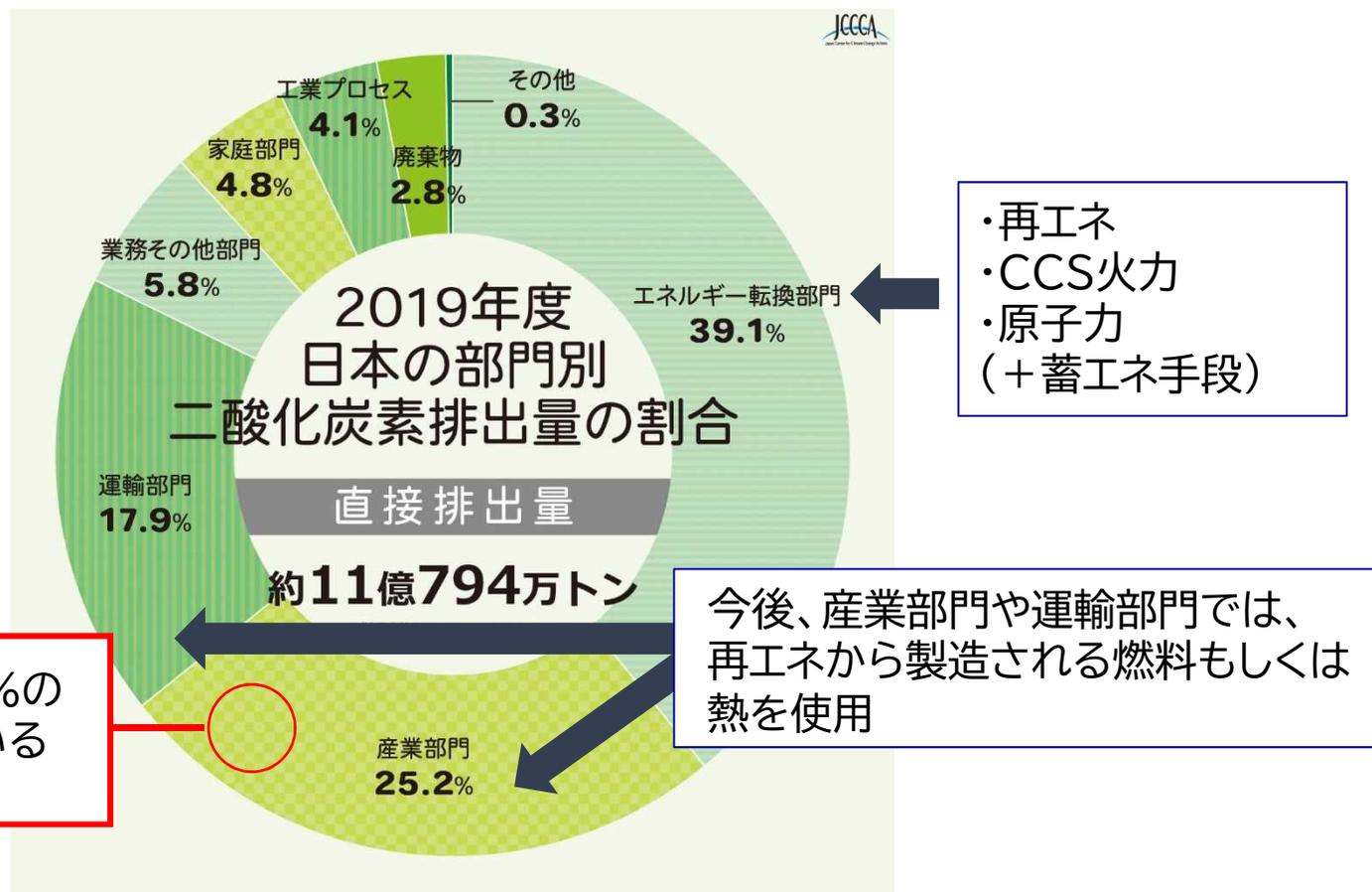
負荷分析により蓄積された情報からリース、BOT提案など省エネメリットに合わせた内容にして販売につなげる

日誌負荷分析件数を増やし、ガスーガス入替実績に繋げる行動を継続する

5. カーボンニュートラルに向けて

日本の部門別CO₂排出量の割合は、産業部門・運輸部門で排出量の**43.1%**を占めており、産業部門の中でも熱利用の占める割合は**約6割**と大きい

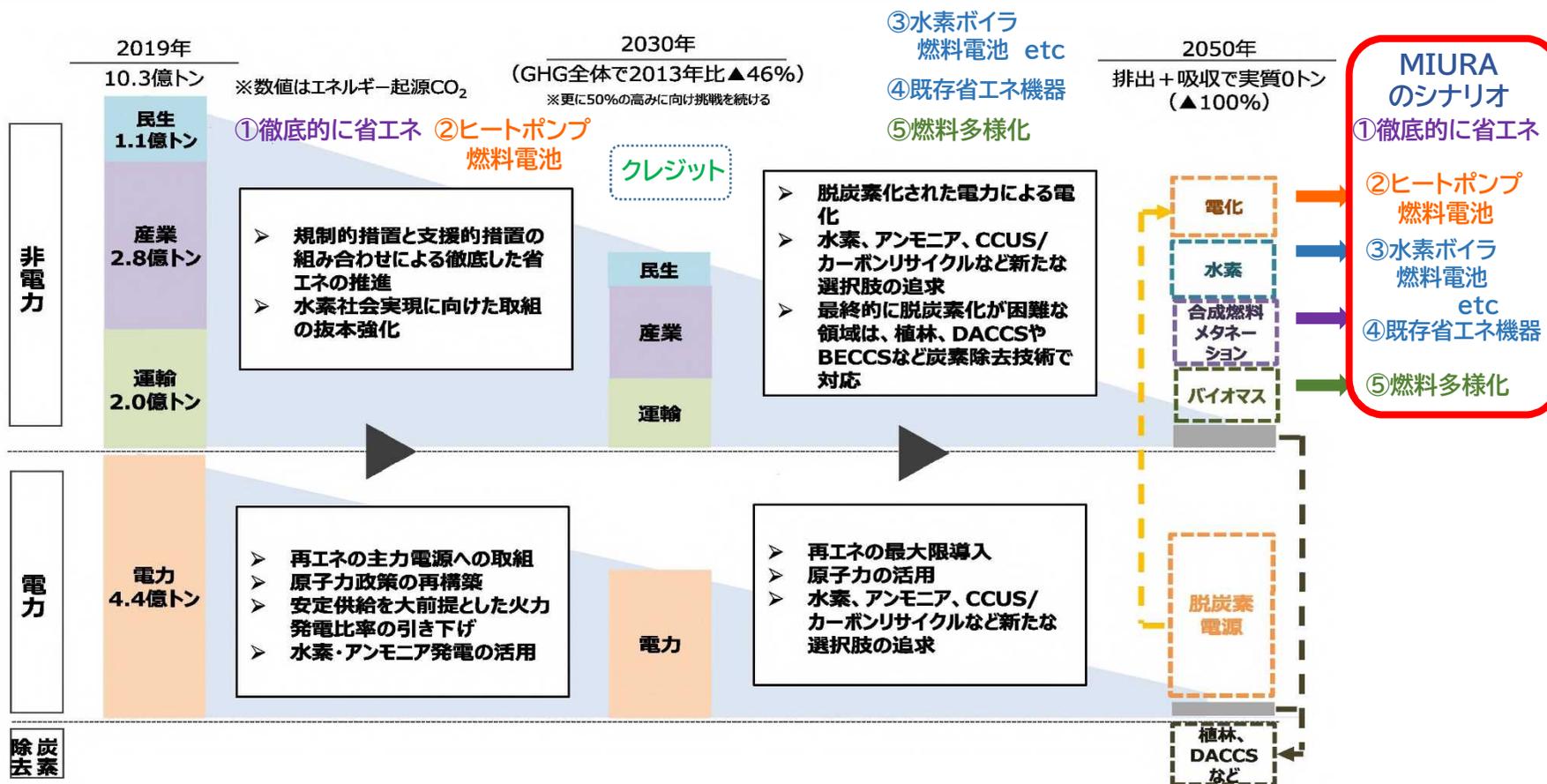
- パリ協定達成(GHG▲80%)を考えると、電力を脱炭素化するだけでは限界がある
- 再エネを電力としてだけでなく、水素変換を通して自動車燃料や熱源として利用できる



出典:温室効果ガスインベントリオフィス/全国地球環境温暖化防止活動推進センターウェブサイト

5 国のグリーン成長戦略とミウラのシナリオ

・社会全体としてカーボンニュートラルを実現するには、電力部門では非化石電源の拡大、産業・民生・運輸(非電力)部門(燃料利用・熱利用)においては、脱炭素化された電力による電化、水素化、メタネーション、合成燃料等を通じた脱炭素化を進める事が必要
 ・こうした取組を進める上では、国民負担を抑制するため既存設備を最大限活用するとともに、需要サイドにおけるエネルギー転換への受容性を高めるなど段階的な取組が必要



出典: 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略より
<https://www.meti.go.jp/press/2021/06/20210618005/20210618005-3.pdf> (経済産業省)

お客様課題

CO₂削減

VS

コストアップ



ミウラのシナリオ

お客様の**既存設備の活用**と**エネルギー転換の速度**のバランスを取りながら、中長期に2段階で環境負荷低減への貢献を目指す

STAGE 1
(省エネ徹底)

①燃料転換と高効率化
(油→LNG)

②廃熱回収
未利用熱活用

③見える化

④省エネ診断

STAGE 2
(新規開発)

新燃料対応
(水素・アンモニア等)

トータルソリューション
の進化

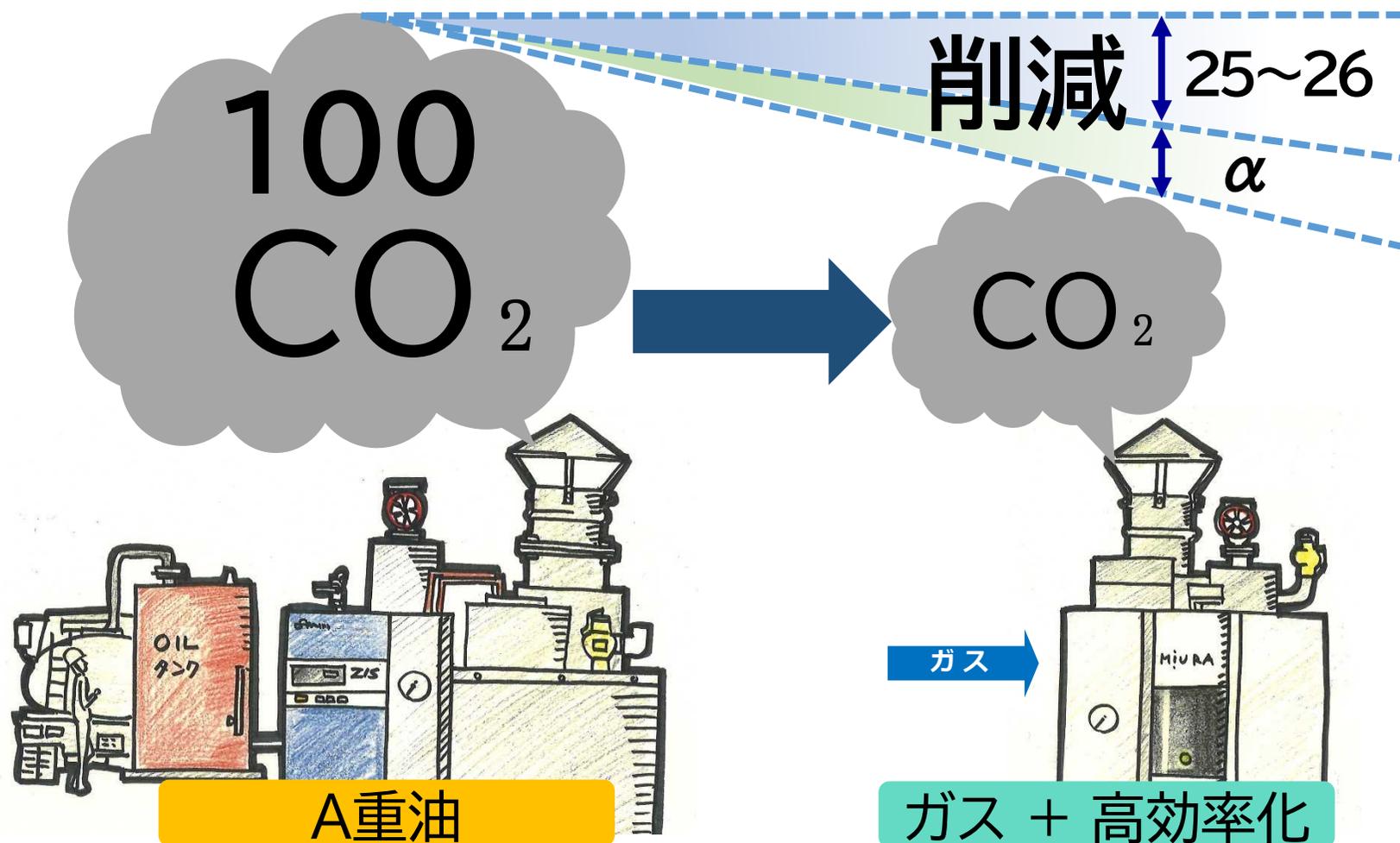
相当蒸発量2t設備での蒸気ボイラ等比較表

	燃料別	ガス焚 貫流ボイラ	電気 ボイラ	水素 ボイラ	蒸気発生 ヒートポンプ
蒸気品質	熱応答性	冷態起動時:5分 (蒸気出力まで)	冷態起動時:5分 (蒸気出力まで)	冷態起動時:5分 (蒸気出力まで)	冷態起動時:60分
設備仕様	運転効率%	98%・102%	97%	95%・99%	250%
	設置面積(※)	1	14	3 (屋外設置)	12
コスト 比較 (※)	設備イニシャル 標準価格	1	3	2.5	12.5
	エネルギー費 (円/蒸気発生t)	1	2.5	5.5	1
	整備費 (円/蒸気発生t)	1(保守契約)	2(年1点検)	2.8(保守契約)	60
安全性	適用法令	・ボイラー及び圧 力容器安全規則 ・火災予防条例	火災予防条例	・ボイラー及び圧 力容器安全規則 ・火災予防条例	高圧ガス保安法
	必要資格	事業主による 特別教育受講者	無	事業主による 特別教育受講者	第一種冷媒フロン 類取扱技術者

※ ガス焚き貫流ボイラを1とした場合の他製品での比較値を表示しています
ボイラに関しては当社製品間での比較となります

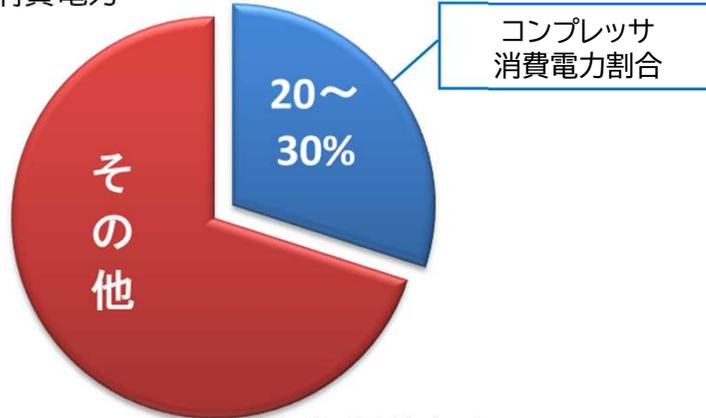
最新ガス焼きボイラシステム

A重油→ガスへ切り替えるだけで、約25～26%のCO₂が削減され、さらにボイラ効率UPで+ α のCO₂削減と省エネが可能

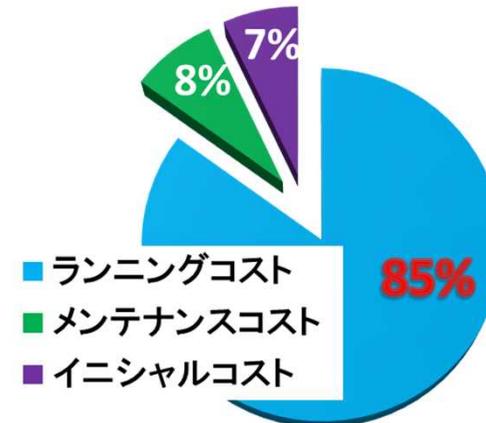


コンプレッサの省エネは工場にとって非常に重要！

工場全体の消費電力

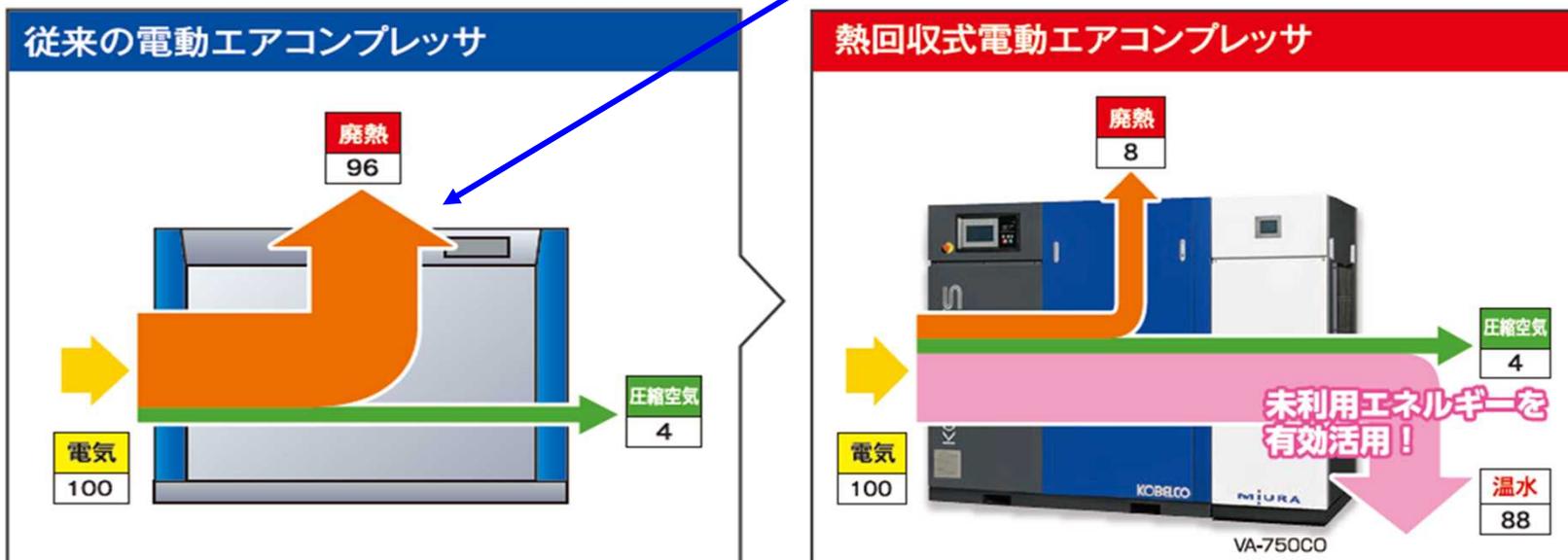


コンプレッサのライフサイクルコスト(10年)

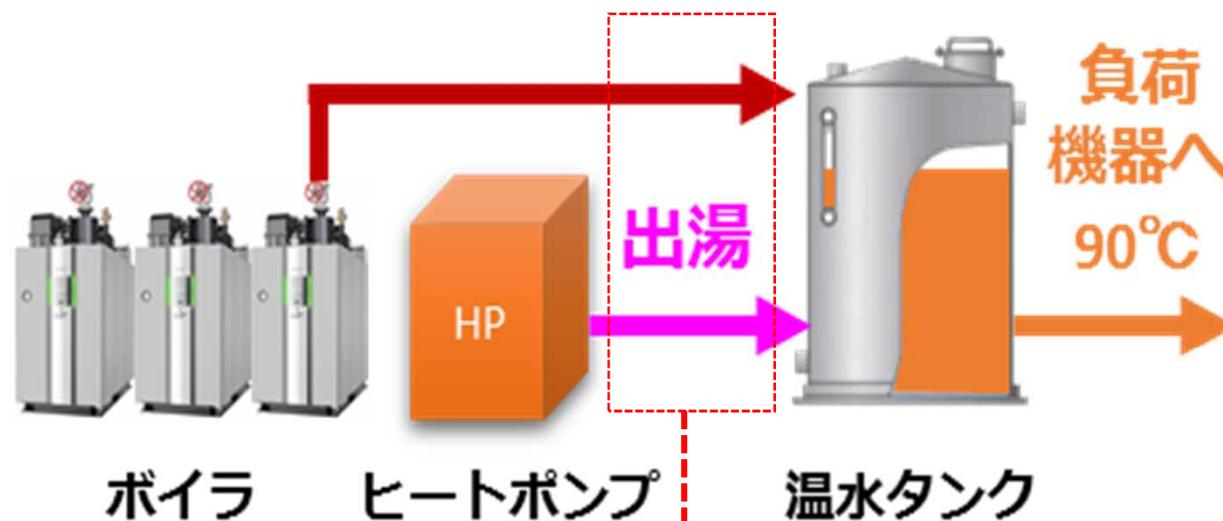


出典 省エネルギーセンター:空気圧縮機(2005.7)

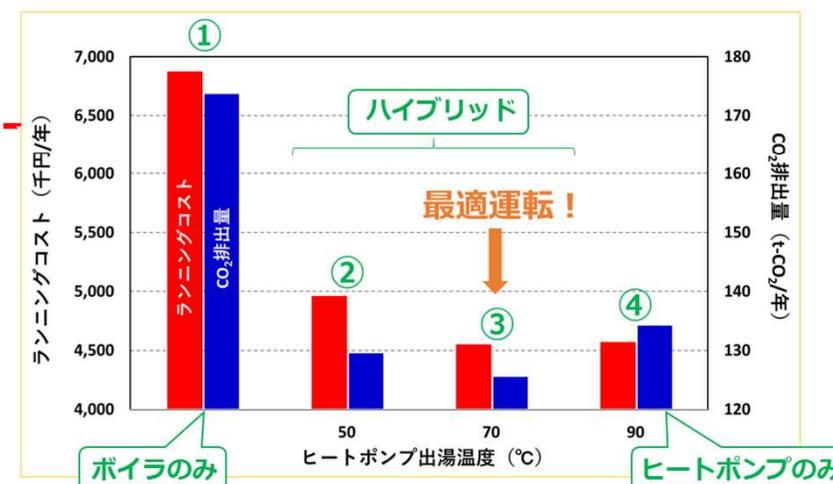
通常のコンプレッサは入力エネルギーのほとんどを熱に変換し、大気に捨てている



ヒートポンプとボイラのそれぞれの長所を活かし、CO₂削減と省エネ効果を最大化する ハイブリッドシステム



設備が必要とする出湯温度に応じて、ヒートポンプとボイラとの組み合わせで最適な運転による省エネを実現！



ハイブリッド運転による省エネ・環境性

エネルギー使用状況を見える化し、 運転効率改善(省エネ)のサポート

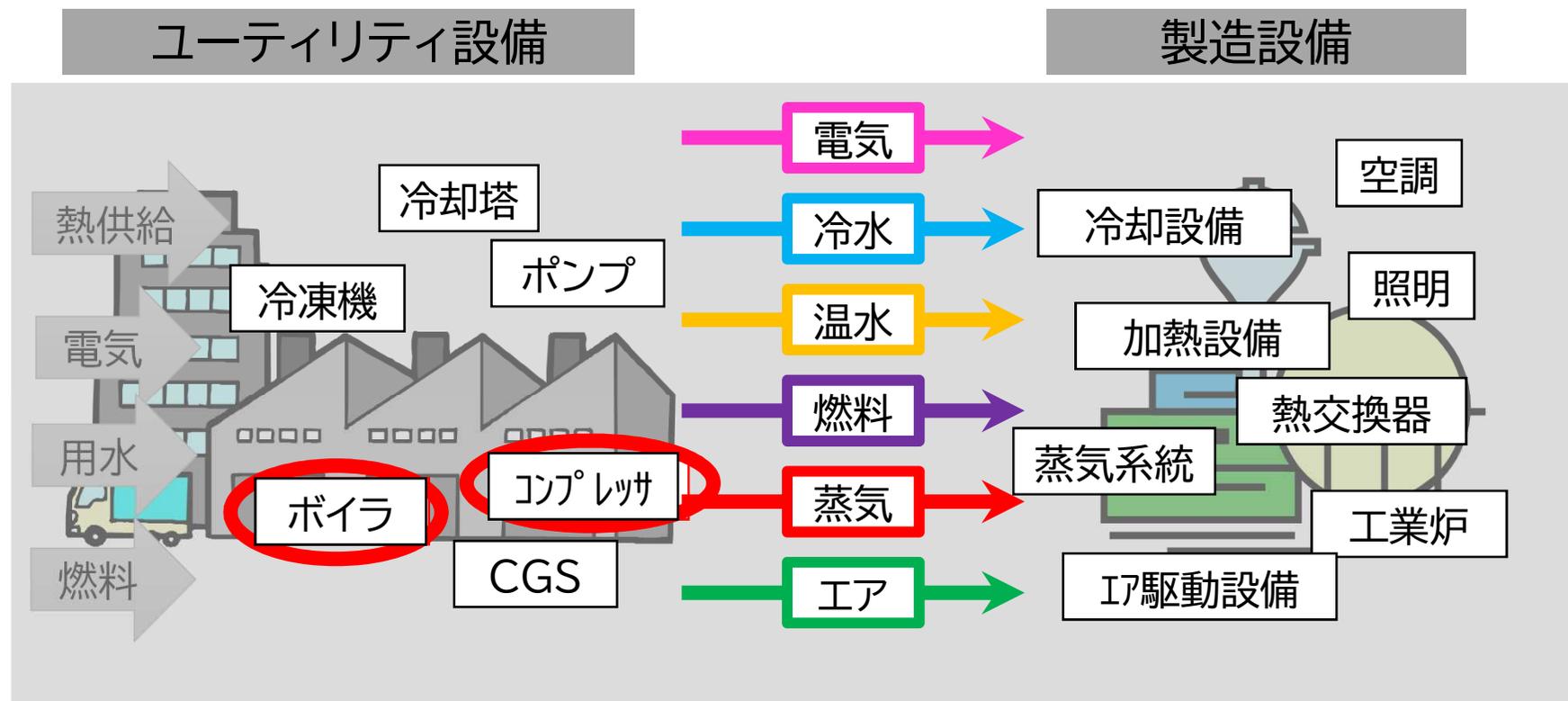
MEIS CLOUD / MEIS CLOUD+

×

ワンストップメンテナンス



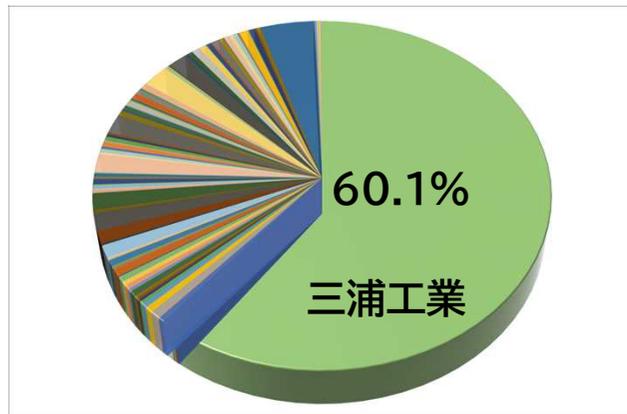
まずは現状把握



お客様の設備を単体ではなく
トータルで把握し改善を提案

- ・圧倒的な診断実績により蓄積された熱、電気、水、空気等の見える化、定量化技術
- ・お客様の環境、地域情勢に応じたメーカーフリーのCO₂削減のご提案
- ・生産設備のエネルギー使用量診断による、原単位把握可能データのご提示
(ベンチマークのお手伝い)

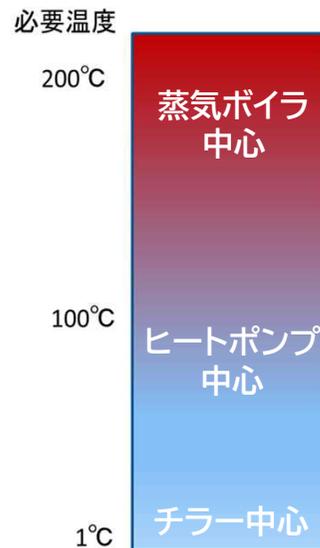
SHIFT事業支援機関における
診断実績報告数(直近5年)



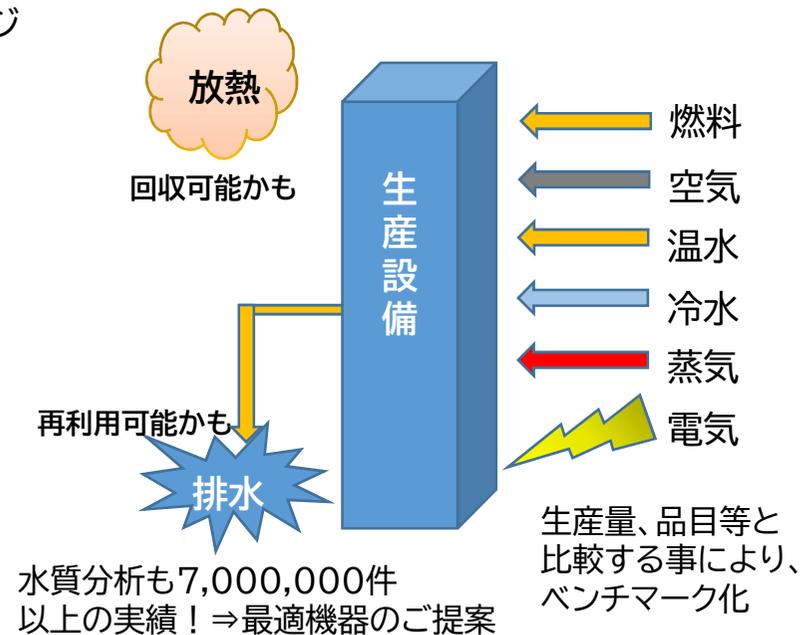
総業者数:136社 総実績数:25,015件

※SHIFT事業:脱炭素化に向けた
環境省の診断補助金制度
(2021年現在では唯一の国の診断補助金)

温度帯による
ご提案機器イメージ



生産設備診断イメージ



燃料電池 (コージェネ機)	燃料電池 (モノジェネ機) ～東京ガス株式会社 と共同開発中～	水素燃料の 貫流蒸気ボイラ	 <p data-bbox="1456 1197 1881 1276">乞うご期待</p>
			
<p>都市ガスを燃料とし、 電気と熱(温水)を 生み出すコージェネ機。 省エネ、CO₂削減、 防災対策に貢献! 発電効率50%、総合 効率90%</p>	<p>都市ガスを燃料とし、 電気を生み出す モノジェネ機。 <u>世界初・発電効率65%!</u></p>	<p>燃料は水素のため、 CO₂排出ゼロ! SI-2000ASは 高速連続制御搭載 AI-2500高圧仕様 もラインナップ。</p>	

6. Appendix

1. セグメント別売上収益推移
2. (国内)事業別売上収益推移
3. セグメント別営業利益推移
4. 地域別売上収益推移
5. キャッシュ・フロー推移
6. 設備投資・減価償却費・研究開発費推移
7. 為替レート推移

1.セグメント別売上収益推移

単位:億円

	2018年 3月期2Q	構成比 (%)	2019年 3月期2Q	構成比 (%)	2020年 3月期2Q	構成比 (%)	2021年 3月期2Q	構成比 (%)	2022年 3月期2Q	構成比 (%)
国内機器販売	261	48	274	42	299	44	264	44	278	42
国内メンテナンス	145	27	153	23	161	24	168	28	180	27
ランドリー	41	7	104	16	92	14	58	9	65	10
海外機器販売	78	14	97	15	93	14	89	14	100	15
海外メンテナンス	24	4	26	4	29	4	33	5	36	6
合計	551	100	656	100	677	100	615	100	662	100

2.(国内)事業別売上収益推移

単位:億円

(国内) 事業別 売上収益推移	2018年 3月期2Q	構成比 (%)	2019年 3月期2Q	構成比 (%)	2020年 3月期2Q	構成比 (%)	2021年 3月期2Q	構成比 (%)	2022年 3月期2Q	構成比 (%)
ボイラ	277	62	285	53	299	54	264	54	300	57
アクア (水処理機器)	13	3	14	3	19	3	22	4	27	5
船用	40	9	48	9	57	10	62	13	44	8
食機・ メディカル	50	11	51	10	56	10	50	10	58	11
ランドリー	41	9	104	19	92	17	58	12	66	13
その他(特機・ 新事業・環境 等)	27	6	30	6	31	6	35	7	30	6
合計	448	100	532	100	554	100	492	100	525	100

3.セグメント別営業利益推移

単位:億円

	2018年 3月期2Q	構成比 (%)	2019年 3月期2Q	構成比 (%)	2020年 3月期2Q	構成比 (%)	2021年 3月期2Q	構成比 (%)	2022年 3月期2Q	構成比 (%)
国内機器販売 営業利益率	20 7.4	31	16 5.5	21	24 7.6	28	16 5.8	20	24 8.4	27
国内メンテナンス 営業利益率	41 28.6	62	43 28.2	55	47 29.2	54	50 29.9	63	50 28.0	55
ランドリー 営業利益率	0.4 1.1	1	8 8.0	11	5 5.7	6	0.1 0.2	0	2 3.5	2
海外機器販売 営業利益率	2 3.5	4	8 8.9	11	7 8.2	9	7 8.0	9	8 8.5	9
海外メンテナンス 営業利益率	1 6.1	2	1 6.6	2	2 9.8	3	6 17.9	8	6 18.0	7
合計 営業利益率	66 12.1	100	80 12.2	100	87 12.9	100	80 13.0	100	92 14.0	100

4.地域別売上収益推移

単位:億円

	2018年 3月期2Q	構成比 (%)	2019年 3月期2Q	構成比 (%)	2020年 3月期2Q	構成比 (%)	2021年 3月期2Q	構成比 (%)	2022年 3月期2Q	構成比 (%)
日本	448	82	532	81	554	82	492	80	524	79
米州	17	3	24	4	25	4	21	3	30	4
韓国	35	6	36	5	38	5	40	7	39	6
中国	35	6	42	7	39	6	46	7	44	7
その他	16	3	22	3	22	3	17	3	24	4
海外合計	103	18	124	19	123	18	124	20	137	21
合計	551	100	656	100	677	100	616	100	662	100

5. キャッシュ・フロー推移

単位:百万円

	2018年3月期 2Q	2019年3月期 2Q	2020年3月期 2Q	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q
営業活動CF	2,101	6,393	6,195	10,003	7,496
投資活動CF	△11,910	△908	△1,397	△6,715	△3,722
フリーCF	△9,809	5,485	4,798	3,288	3,774
財務活動CF	1,971	△2,253	△4,327	△4,140	△4,141

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
営業活動CF	9,028	17,134	18,121	22,982	—
投資活動CF	△13,870	△2,552	△10,300	△11,073	—
フリーCF	△4,842	14,582	7,821	11,909	—
財務活動CF	505	△7,064	△8,978	△7,991	—

6.設備投資、減価償却費、研究開発費推移

単位:百万円

	2018年3月期 2Q	2019年3月期 2Q	2020年3月期 2Q	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q
設備投資(使用権資産除く)	3,764	3,341	2,311	1,701	1,981
減価償却費	1,526	1,819	3,234	3,353	3,410
研究開発費	1,353	1,839	1,497	1,367	1,333

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (計画)
設備投資(使用権資産除く)	5,250	4,478	4,570	3,646	4,602
減価償却費	3,649	3,678	6,580	6,733	6,753
研究開発費	3,335	3,728	3,578	3,165	—

7.為替レート推移

平均レート

通貨	2018年3月期 2Q	2019年3月期 2Q	2020年3月期 2Q	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q	前2Q増減率 (%)	2022年3月期 2Q 計画
USD	111.04	110.26	108.60	106.93	109.81	+2.7	108.00
CAD	85.58	84.87	81.73	78.72	88.30	+12.2	84.00
元	16.42	16.74	15.68	15.26	16.99	+11.3	16.20
WON(100W)	9.83	10.04	9.22	8.89	9.65	+8.5	9.40
ルピア(100Rp)	0.84	0.78	0.77	0.73	0.77	+5.5	0.75
NTD	3.67	3.65	3.49	3.61	3.94	+9.1	3.70
ブラジルリアル	34.83	29.27	27.56	19.91	20.75	+4.2	19.50
メキシコペソ	6.11	5.75	5.64	4.72	5.49	+16.3	5.10
タイバーツ	3.28	3.40	3.49	3.38	3.42	+1.2	3.40

熱・水・環境のベストパートナー

MiURA

お問い合わせ先

三浦工業株式会社 経営企画室

TEL 089-979-7045

FAX 089-979-7011

URL <https://www.miuraz.co.jp/>



Recycle Project

この用紙はミウラ内の使用済コピー用紙を原料に社内で再生紙として加工したものです。



r100
高級ハルプ製本率100%再生紙を使用